［認知症対応型共同生活介護用］

1. 調査報告概要表

作成日　平成20年6月11日

【評価実施概要】

事業所番号	4773300050
法人名	社会福祉法人　喜寿会
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所　グループホーム美ら里さしき
所在地	沖縄県南城市佐敷字屋比久44番地 （電　話）098（947）0034

評価機関名	沖縄県社会福祉協議会
所在地	沖縄県那覇市首里石嶺町４－373－１
訪問調査日	平成20年5月28日

【情報提供票より】（平成20年4月1日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	昭和・(平成)　16年11月1日	
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計　9　人
職員数	9　人	常勤 7人（兼務1名），非常勤1 人，常勤換算4．6人

（2）建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り
	1 階建ての　階 ～　1 階部分

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	36,000　円		その他の経費（月額）	光熱水費9,000　円
敷　金	有（　円）		(無)	
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（　円） (無)		有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	200　円	昼食	350　円
	夕食	350　円	おやつ	0　円
	または1日当たり	円		

（4）利用者の概要（4月1日現在）

利用者人数		9 名	男性	2 名	女性　7 名
要介護1		2　名	要介護2	3　名	
要介護3		4　名	要介護4	名	
要介護5		名	要支援2	名	
年齢	平均	88.4 歳	最低	78 歳	最高　100 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	与那原中央病院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

サトウキビ畑と古くからの集落に隣接する同ホームは、レモンイエローの外観が一際明るい印象を与え、外観同様、室内も中庭に面して明るく、利用者も職員と共にそれぞれの役割を果たし、活き活きと生活を営んでいる。自治会や老人会への加入がまだ認められていないこともあり、地域との連携不足は否めないが、今後運営推進会議の定期開催をはじめ、積極的に地域との交流を進める予定である。介護計画についてはアセスメントやサマリー等、現況やケアの留意点等に重点が置かれているが、今後は利用者一人ひとりの生活歴や趣味、経験等を記録として残し、職員全員で情報の共有と介護計画への反映をお願いしたい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①

前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）

前回評価では、地域との交流を含めた広報活動や利用者の趣味や経験が活かされる生活環境作り、薬や応急手当の研修、介護計画作成における職員の情報共有等が改善課題として上げられた。ホーム便りを年2回から3回に発行を増やしたり、運営推進会議の2ヶ月に1回の定例化、薬や応急手当の研修計画等、改善に結びついたこともいくつかあり、残された課題に関しては今後の取組みに期待したい。

今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）

自己評価はスタッフ全員で日々のケアを振り返りながら各自評価し、管理者がまとめて報告している。外部評価も謙虚に受け止め、日々のケアにフィードバックできるように前向きに話し合い、改善できるよう努めている。

重点項目②

運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）

前年度は2回の開催に留まり、サービスの向上に向けた取り組みまでには至っていなかったが、今年度は奇数月に定例化し、2ヶ月に1回の開催とし外部評価の課題等の改善にも努力する予定である。地域との連携においても運営推進会議の役割は大きいので、日々の活動や外部評価の報告や改善についても共に考え、サービスの質の向上に取り組んでいただきたい。

重点項目③

家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）

意見箱の利用や外部への相談、苦情はほとんど無く、受診や面会時に直接職員へ相談するケースが多数を占めているが、現在のところ、運営に関して家族意見を反映させるまでには至っていない。家族が管理者や職員に対して、苦情や不満等を言いやすい環境づくりと、第三者委員の活用等を含めた外部の苦情窓口へ意見や不満を言える機会を設けるなど、家族の意見を運営に反映させるよう努めていただきたい。

重点項目④

日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）

現在は近隣出身利用者が個人的に親しくしているので、近所から孤立化していることはないが、まだ自治体や老人会への加入が認められていないため、老人会や行事等への参加は実現していない。運営推進会議を積極的に活用しながら、自治体や老人会に加入する準備を進めて、認知症に関する理解を求める努力や相談活動を始め、行事や地域活動にも積極的に参加されるようお願いしたい。

2. 調 査 報 告 書

（ ▒ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「その人らしい生活、普通の暮らし、地域と繋がりある生活」という理念は、開設当時の職員全員で考えたもので、地域密着型に移行した後も、入居者が地域の中で普通に暮らしていけるよう支援していく姿勢に変わりはない。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝申し送りの際に唱和して1日のスタートを切り、また勤務表の裏面にファイルして、いつでも誰でも確認できるように備え付けている。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	現在は近隣出身利用者が個人的に親しくしているので、近所から孤立化していることはないが、まだ自治体や老人会への加入が認められていないため、老人会や行事等への参加は実現していない。	○	運営推進会議を積極的に活用しながら、自治体や老人会に加入する準備を進めて、認知症に関する理解を求める努力や相談活動を始め、行事や地域活動にも積極的に参加されるようお願いしたい。
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員が各自評価し、管理者がまとめて報告している。外部評価も謙虚に受け止め、すぐ改善に結びつくものと時間がかかるものもあるが、日々のケアに反映できるように話し合い、改善できるよう努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前年度は2回の開催に留まり、サービスの向上に向けて取り組みまでには至っていなかったが、今年度は奇数月に定例化し、2ヶ月に1回の開催に向けて努力する予定である。	○	地域との連携においても運営推進会議の役割は大きいので、定例化し、日々の活動や外部評価の報告や改善についても共に考え、サービスの質の向上に取り組んでいただきたい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現在行政担当者との連携は、運営推進会議以外はあまり行われていない。	○	今後は運営推進会議を定例化することで、市町村との関係性を密にし、運営やケアについても相談できる体制づくりを進めることで、サービスの質の向上を図ることを望みたい。
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	体調の変化時は電話で状態を伝え、また定期受診日や面会時には職員は進んで家族に話しかけ、利用者の日々の様子を伝えている。またホーム便りも昨年度は年3回発行だったが、今年度は2ヶ月に1回発行している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しているが利用はほとんど無く、受診や面会時における職員への相談等が大多数を占めている。外部者への苦情相談も無く、運営に関して家族意見を反映させるまでには至っていない。	○	家族が管理者や職員に対して、苦情や不満等を言いやすい環境づくりと、第三者委員の活用等を含めた外部者への意見や不満を言える機会を設けるなど、家族の意見を運営に反映させるよう努めていただきたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職は最小限に抑える努力をしているが、代わる場合は、新任者には1週間を通して繰り返し挨拶をさせたり、しばらく先輩職員を同伴させる等馴染みの関係づくりを行っている。離職者には全員で花束を贈り、労いながら利用者の理解が得られるよう配慮している。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度からは一人ひとりの研修計画を立て、職員全員に受講の機会を与えている。また受講後は伝達研修を徹底させ、情報の共有化を図り、職員のスキルアップに努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	沖縄県グループホーム連絡会に加盟し、積極的に参加すると共に、法人内や協力病院の勉強会にも勤務を調整して参加させている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	実調後に家族と共に何回か見学を繰り返して利用を開始している。それでも馴染めないときには家族の応援をお願いしている。また他の利用者が本人をお客さんとして何かとお世話してあげている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を共に暮らす仲間として受入れている。日々の生活の中で相談事をしたり、料理方法等を習ったり、共に考え、行動することが定着している。また、人生の先輩として知恵も授かっている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアの中で、一人ひとりの希望や意向の把握を心がけているが充分ではなく、記録にも残すことはしていない。	○	利用者の思いや希望は日々変動することは予想されるので、聞いた職員がそれぞれ記録に残すことで、職員間の情報の共有にもつながり、一人ひとりに添ったケアプランに反映されることを望みたい。
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	アセスメントから介護計画作成、カンファレンスまで、家族や本人の意向や希望を反映させるための、関係者との連携は見られるが、現状認識に留まり、本人の生活歴や馴染みの関係性、本人の能力が発揮されることについての取り組みはあまりなされていない。	○	認知症の有する利用者のケアには、過去の職業や生活歴等の情報は不可欠であり、アセスメントや日々のケアのなかで、本人はもちろんのこと、家族や面会者からの聞き取り等も記録に残して、ケアプランに活かしていただきたい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しは行っていないが、入退院や体調の変化等、本人の状態に応じたプランの見直しを行っており、退院時には病院のカンファレンスへ参加して、適宜新たな計画を作成している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が病院受診に行けない時は、同行したり、その日その日の利用者の希望によって、ドライブ等の行き場所を決めている。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関はあるが強制することは無く、通常は家族を通してかかりつけ医へ受診している。家族が同行できない利用者に関しては職員が同伴し、協力体制を築いている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在は終末期にむけたケアは行っていないが、今年7月には検討委員会を設置して、今後の方針等について話し合い、医療系の職員配置を含めて検討している予定である。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録等の個人情報の保護については対応できているが、一人ひとりへの言葉かけ等は、常に初心に返って気をつけるよう、職員間でも注意し合っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や個人の役割等も本人の意思を尊重して、無理強いせず、職員のペースにならないよう、希望に添った支援を心がけている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえや配膳、下膳、テーブル拭き、食器洗い等の仕事を希望者で分担し、楽しそうに行っている。食事中も職員と共に会話が弾み、多くの利用者が残さずに食している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間帯を気にすることなく、利用者の希望に応じた入浴支援を行っている。嫌がる場合は無理強いすることなくタイミングを見計らった声かけをしており、希望者は浴槽も自由に利用可能である。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物干しやたたみ、食事の下ごしらえや片付け、また、終身前の戸締り等、日々の暮らしの中で自然に役割分担が行われている。また来客の接待等も積極的である。カンファレンスや日々のケアの中でも、一人ひとりの生活歴や力の把握に努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物をする際は、ドライブの好きな方には車で遠くのスーパーへ、歩きが好きな利用者には散歩しながら近隣の店へ同行している。また帰宅願望が強い利用者にはそっとついていく等、外出支援をしている。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけずに玄関にセンサーを設置しており、利用者の外出を確認次第、職員が対応している。その場合、外出を無理に止めるのではなく、できる限り同行して利用者の外出支援を行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人の消防訓練に毎年2名ずつ職員を派遣し、消火器の使用方法や避難誘導等の訓練を受けているが、地域の協力体制を築くまでにはいたっていない。	○	災害時の利用者の避難誘導は緊急課題であり、特に夜間の職員配置が1名であることからも、地域の方々への理解と協力が得られるよう、早急な取り組みが期待される。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの毎日の食事や毎月の体重チェック等をしており、週単位の献立作成も栄養バランスを考えて行っている。現在1名以外は食事制限もないため、利用者がお茶やコーヒーを自由にいれて、みんなに配っている状況であり、傍らから職員が支援している。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭に面した食堂は明るくゆったりしている。畳間は敷居が若干高いのが気になるが、濡縁も設置され家庭的な感じがする。玄関や廊下、トイレや浴室等の共用空間も明るく清潔で、BGMの音量も快適である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から持ち寄ったテレビや収納ケース、時計等が置かれ、室内のレイアウトも各部屋若干変わっており、すべて異なる暖簾によって、部屋の区別がなされている。		